

# 国民を捨てた

「民主党政権交代に責任を持つ会」（16名）が発表した「約束を果たす民主党への回帰宣言」の全文。

「今の菅政権は、国民との約束を果たす本来の民主党政権ではない」今、民主党議員の多くが強くそう感じている。「国民の生活が第一」の政治理念は、おとしの衆議

院総選挙での、民主党と国民との最大の約束だった。しかし今の菅政権ではどんな事態が進行しているだろうか。

総選挙では、予算のムダを徹底的に削り、新たな政策の財源に充てるとしたマニフェストを掲げ、政権交代を実現した。しかし、「予算の総組み替えなどを行う」と主張していたのに、ほぼ手つかずの一方で、先週、菅総理大臣は、「衆議院の任期中上げない」として消費税については、「来年度末までに法的な対応をしなければいけない」と発言し、増税への意欲をあらわにした。

菅政権は国民との約束、マニフェストを捨てたのである。

また、政治家主導で日本を立て直すはずが、目玉とされた国家戦略局の設置法案は実現せず、公務員制度改革も反古（ほご）にされている。官僚に頼り放しだが、尖閣問題

菅政権は政治主導の御（み）旗も捨てたのである。

や北方領土問題など、もつとも政治主導であるべき案件で失敗すると官僚のせいにする。

## 菅の約束は嘘

菅政権は、民主党の理念、そして「国民の生活が第一」という国民の皆様への約束をも捨て去ったのである。

菅政権が本来の民主党の政策を捨て、本来の民主党の政治主導を捨て、本来の民主党の国民への約束を捨て去って省みないならば、それは国民が願いをかけた本来

の民主党そのものを捨て去ることになる。

そして、このことは、本来の民主党への支持の上に比例代表で当選した我（われ）々（われ）の存在意義すらも打ち消すことになる。

我々は民主党と国民との約束の上に存在する比例代表の議員だからこそ、本来の民主党の姿とはかけ離れた今の菅政権にはもう黙ってはいられない。みすみす旧来からのしがらみにはまり込み、無原則に政策の修正を繰り返す菅政権に正当性はない。我々は今こそ「国民の生活が第一」の政策を発信し、国民の信頼を取り戻していかなければならない。

しかし、我々は、民主党に對する信頼が地に落ちた今もなつても民主党を捨てるつもりはない。歯を食いしばっても、国民との約束であるマニフェストの実現に取り組み我々こそが、本来の、そして真の民主党であるからだ。

従つて、我々は、国民との約束を果たす議員集団であることを、改めて国民の皆様に行動で示すために、衆議院での民主党・無所属クラブとは分かれ、新たに院内会派を設立する。そして同志一同が結束して、「国民の生活が第一」の政策を実行すべく今後、行動を展開していくこととする。

2月17日 民主党・衆議院比例代表単独議員有志一同

(有)西川経営オフィスサービス  
**中村会計**  
**事務所便り**  
 2011年2月22日(火) NO 171  
**地域から明るい未来を作ろう**

誰も、お金のために働くのではなく、幸福になりにため、愛する人のために働く。

職場は金を稼ぐ場所ではない。世のため人のため愛するもののため人のため愛するもののために働く場所である。人の幸せは四つあると言

**働くのは愛する人のため**

一 つは、人にほめられること。  
 二 つは、人に必要とされること。  
 三 つは、人の役に立つこと。  
 四 つは、人に愛されること。

この四つを得るために、働く

また、「他利自利」という言葉があります。まず自分が幸福になりましたら、積極的に誰かを幸福にして下さい。誰かの犠牲の上に成り立つ幸せは、正しい筈がないのです。